

出演者ひとくち紹介

ジェラルド・ミュヘッド スコットランドのバグパイプ演奏

スコットランド・エジンバラ出身、仙台在住。世界でもトップレベルの演奏者。祖父がバグパイパー、父もバグパイプ音楽を愛する家庭に育ちエジンバラ城にあるバグパイプ音楽学校で故アンガス・マクドナルドからバグパイプ演奏を学ぶ。その後、ザ・ロイヤル・スコッツ・ドラゴン・ガーズに所属、当時このバンドがリリースしたアメージング・グレースは世界的なミリオンセラーになった。除隊後はソリストとして活躍、エジンバラ城の国際フェスティバルで演奏のトップを飾ったこともある。日本の歴史、特に戦国武将に関心が深く、1989年に来日した。1992年、国際バグパイプ・コンテストで最高賞を受賞。現在、ケルティック・フェスティバルの音楽委員を務め、日本・スコットランド親善に貢献している。

関 孝之

ブルガリアの太鼓とバグパイプ演奏

東京在住。大学在学中に所属した民族舞踊研究会でブルガリアのフォークダンスに強く強く惹かれ、旧体制下のブルガリアに単身渡航する。以後、20年以上にわたって毎夏ブルガリアを訪れ、踊りと民族楽器演奏の習得、研究を続けている。最近国内各地や台湾などで踊りの指導を依頼されることも多い。ブルガリアをはじめとするバルカン諸国の踊りへの情熱は熱く、合宿所の浴室脱衣所でも道端でも丁寧に質問に答えてもらった、と感激するフォークダンサーは数知れない。

仙台アイリッシュ ・ローパーズ

スコットランドの踊りを楽しんで
います。男性のスカート姿は実は
りりしいのです。

仙台南高校音楽部

吹奏楽と合唱

部員数約50人。古関正教諭ほかの熱心な指導の下、県内でも有数の演奏成績を収めている。今回はスコットランド文化圏の軍楽隊以外ではなかなか聴けない、そして楽譜もない“バグパイプとの合奏”やブルガリア女声合唱で知られるようになった変拍子の合唱曲にチャレンジ。舞台に響く若々しい音が楽しみな高校生の皆さんです。

仙台市フォークダンス協会

今年創立50周年。仙台市内の社会人サークルで一番古い。OB・OGに創立時のエピソードを聞くと、進駐軍と掛け合った話などがあって戦災復興時の当時をしのぼせる。ポロネーズとマズルカに出演。

もりまどーる

盛岡で踊っています。
トルコ黒海沿岸の
踊りを見てね。

パーリンカ

ハンガリー民族の
踊りを踊っています。
パーリンカは現地の
強い蒸留酒の
名前！